古文書（こもんじょ）とあそぼう！

おうちミュージアム　おうちで たのしく まなべる

江戸時代（えどじだい）のお金の単位　受け取り証明書編　Part2

いま私たちが使っているお金の単位は「円」といいますが、江戸時代には今と違った単位のお金が使われていました。江戸時代のお金のやり取りが書かれた文書から、当時のお金の単位を探してみましょう！

文書の中に、江戸時代に使われていたあるお金の単位が2つ書かれているよ。
どれかわかるかな？

ヒント：数字の近くに書かれているよ！

「拾（じゅう）」は「十」のことだよ。
この文書の中には数字が
いくつか書かれているね。
読めるかな～？

江戸時代(1603～1867 年)

徳川家（とくがわ）が、江戸(今の東京都)を中心に政治（せいじ）を行っていた時代のこと。初代（しょだい）の家康（いえやす）から 15 代の慶喜（よしのぶ）まで、およそ 260 年間続いたよ。

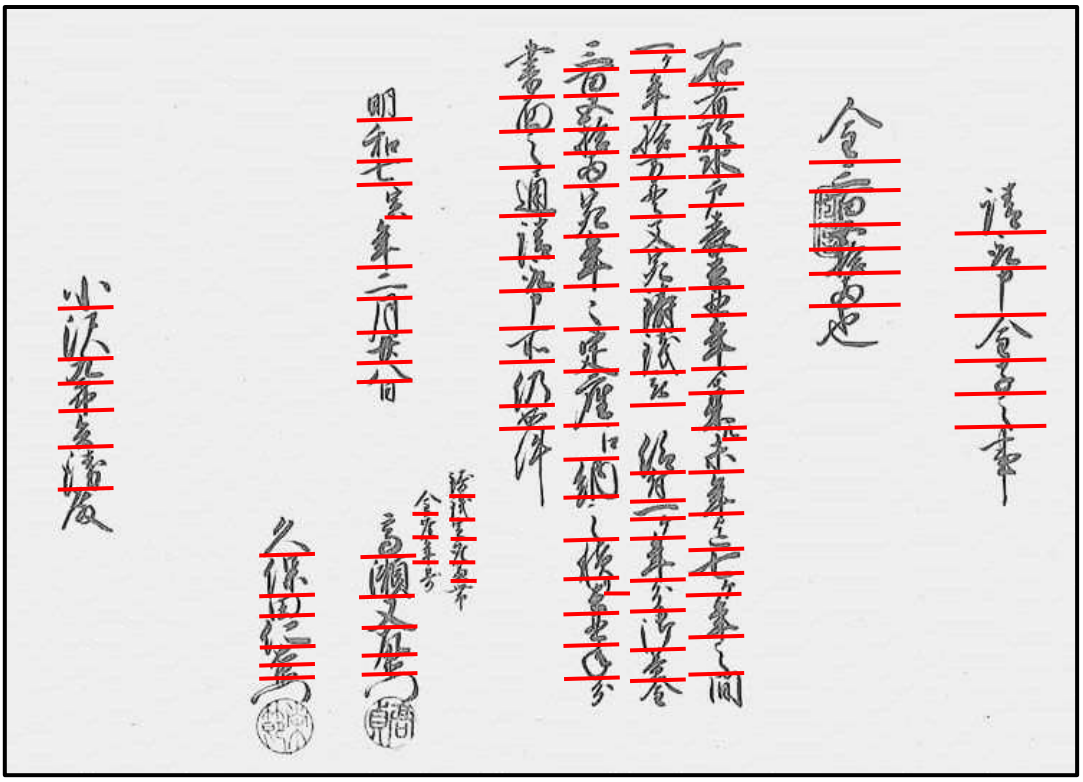
日本銀行金融研究所
貨幣博物館

掲載している文章及び図版・イラストの無断転載・利用を固く禁じます。

古文書（こもんじょ）とあそぼう！

おうちミュージアム　おうちでたのしくまなべる

古文書を読んでみよう！



請取申金子之事

金三百五拾両也　印

右者於水戸表去丑年より来ル未年迄七ヶ年之間
一ヶ年拾万貫文宛鋳銭被　仰付一ヶ年分御益金
三百五拾両宛年々定座江納之積り去丑年分
書面之通請取申所仍如件

明和七寅年二月廿八日

鋳銭定座兼帯
金座年寄
高瀬又左衛門　印

久保田仁右衛門　印

小沢九郎兵衛殿

文書に書かれたお金の単位は…
「両（りょう）」と「貫文（かんもん）」！
見つけられたかな？

日本銀行金融研究所
貨幣博物館

掲載している文章及び図版・イラストの無断転載・利用を固く禁じます。

古文書とあそぼう！

おうちミュージアム　おうちでたのしくまなべる

「両」って何？

両は江戸時代のお金の単位のひとつで、金貨に使われていました。皆さんは「小判」を見たことがありますか？小判１枚＝１両として人々の間で使われていました。
でも、１両はすごい大金！１両あればお団子が 1000 本も買えました。
これでは町で買い物をするときに使いづらいので、人々は小さい額のお金（銭貨など）を使って町で買い物をしていました。

江戸時代の小判

これが小判！
キンピカ～

いつか貨幣博物館にホンモノを見に行こう！

「貫文」って何？

江戸時代の銭貨

貫文も江戸時代のお金の単位のひとつで、銭貨に使われていました。
銭貨は１枚＝１文として使われ、１貫文とは銭貨 1000 枚＝1000 文のことです。

↓江戸時代のお金についてもっと知りたい人はこちら↓
https://www.imes.boj.or.jp/cm/history/content/#EarlyModern

ちょっと深ぼり！

古文書の内容を見てみよう！

この文書は、金３５０両をちゃんと受け取りました、という証明書です。お金を支払ったのは小沢さん、お金を受け取って証明書を書いたのは高瀬さんと久保田さんです。

文書によると、小沢さんは水戸(今の茨城県)にあるお金をつくる場所に関わっている人のようです。そこでは明和６(１７６９)年から７年間、１年間あたり１０万貫文のお金(銭貨)をつくることが決められていました。

さらに、お金をつくって出た利益のうち、毎年３５０両ずつを高瀬さんたちがいる「鋳銭定座」(江戸にあったお金をつくる役所)に納めることになっていたようです。この証明書は、明和６年(丑の年)分の利益を受け取ったことについて出されたものです。

古文書　まめ知識

こう見えても数字です

古文書に書かれた漢数字の中には、私たちがいつも使っているものとは違うものがあります。たとえば「拾」は「十」、「廿」は「二十」のことを表しています。

拾

廿

ほかにも「一」「二」「三」をそれぞれ「壱」「弐」「参」と書くこともあります。これを「大字」(だいじ)と言います。

「壱」は、今の一万円札にも使われているよ。探してみよう！

ここで紹介した以外にも大字があるので、知りたい人は調べてみましょう！

↓この古文書が掲載されている貨幣博物館のページはこちら↓
https://www.imes.boj.or.jp/cm/research/komonjo/001003/004/908483_1/html/

日本銀行金融研究所
貨幣博物館

掲載している文章及び図版・イラストの無断転載・利用を固く禁じます。